

---

---

5 ルイス・キャロルおよびその著作への部分的言及文献

---

---

- 2009 Alfred V. Aho, Brian W. Kernighan, Peter J. Weinberger 『プログラミング言語AWK』足立高德訳（トッパン, 1989年, アジソンウェスレイ・トッパン情報科学シリーズ）

原題: The AWK Programming Language.

---

---

.#Bib \_alice\_

「...『まあ、さし絵も会話もない本なんて、なんの役にたつでしょう』とアリスは思いました。」[\_alice\_]

[\_alice\_] ルイス・キャロル著, 高杉一郎訳 『不思議の国のアリス』  
講談社文庫

---

---

p. 167

- 2010 Louisa May Alcott 『八人のいとこ』村岡花子訳（角川書店, 1960年, 角川文庫）  
原題: Eight Cousins.
- 
- 

一方、若者たちは気の狂った紅鶴のように走り廻ったり、『不思議の国のアリス』の中に出て来る有名な踊り手達の一行のように振舞っていた。

---

---

p. 103

- 2011 Charlotte Armstrong 『始まりはギフトショップ』藤村裕美訳（東京創元社, 1990年, 創元推理文庫）

原題: The Gift Shop.

---

---

「『鏡の国のアリス』の白の女王じゃないけど、ぼくはこれでも、朝食前に、六つもありえないことを信じていることだってできるんだ。でも、これは無理だね」

---

---

p. 109

- 2012 Richard Avery 『クレイトスの巨大生物』石田善彦訳（東京創元社, 1980年, 創元推理文庫）

原題: The Deathworms of Kratos.

---

---

振動発生機の発明によって、この宇宙船は空間にブラック・ホールをつくりだし、有名なチェシャ猫のように消失することができるようになった。

---

---

p. 52

- 2013 William Stuart Baring-Gould 『シャーロック・ホームズ ガス燈に浮かぶその生涯』小林司・東山あかね訳（河出書房新社, 1987年, 河出文庫）

原題: Sherlock Holmes of Baker Street.

---

---

その時、四十歳であったチャールズ・ラトウィッジ・ドッジスは、ホームズと同じく、母校であるクライスト・チャーチに住んでいた。

---

---

p. 31